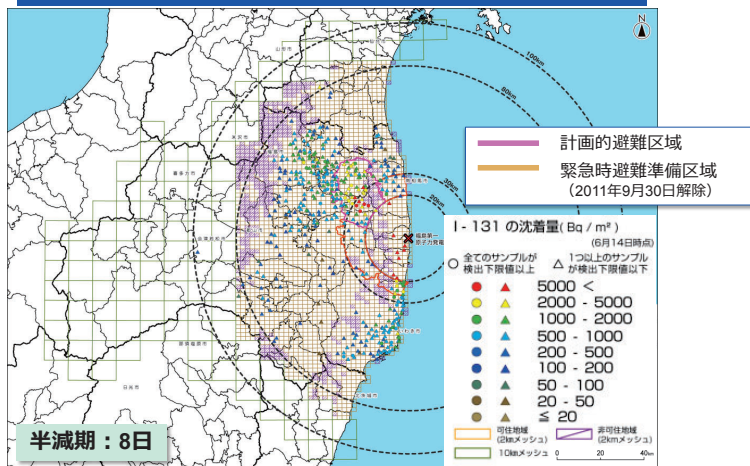


ヨウ素131の土壤濃度マップ



Bq/m² : ベクレル/平方メートル

文部科学省報道発表 平成23年9月21日
(平成23年6月14日現在の値に換算)

事故から3か月後の2011（平成23）年6月に行われた国の土壤に関する調査では、福島第一原子力発電所から80km圏内で採取された土壌試料について、ヨウ素131（I-131）の分析が行われました。セシウムの沈着量が高い地域が、福島第一原子力発電所から北西に帯状となっているのに比べ、ヨウ素131（I-131）の沈着量の高い地域は、福島第一原子力発電所から南の方向にも広がっています。このように、地域によって、放射性セシウムと放射性ヨウ素が異なる比率で地表面に沈着している理由としては、放射性プルームが放出された時期の違いによりヨウ素131とセシウム137の比率が異なり、南方へ流れたプルーム中のセシウム137に対するヨウ素131の放出量の比率が相対的に多かったとする説明、地域により沈着の仕方が異なり北方で降雨沈着が顕著であったため、北方で土壌に沈着したセシウム137の放射能濃度が増えたとする説明などが考えられます。

本資料への収録日：2013年3月31日

本情報は事故当時（2011年）の情報です。

関連 Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA3 農地土壌の放射性物質による汚染状況はどのようになっていますか
- ・3章 QA4 物理減衰やウエザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか